

第1回三木市小中一貫教育推進協議会 議事録（要旨）

日 時： 令和4年6月1日(水) 午後7時～午後8時30分

場 所： 市役所5階 大会議室

出席者：

構 成 員	山下 晃一	神戸大学大学院	教授
	安藤 福光	兵庫教育大学大学院	准教授
	又吉 健二	三木市区長協議会連合会	
	密 祐浩	三木市区長協議会連合会	
	井上 澄子	三木市区長協議会連合会	
	西岡 寿徳	三木市連合PTA	
	吉川 敬二	三木市連合PTA	
	阿南 愛	三木市連合PTA	
	小紫 達矢	三木小学校 校長	
	長谷川 珠里	吉川小学校 校長	
	藤井 克成	吉川中学校 校長	

事務局 大北由美教育長、本岡忠明教育総務部長、
横田浩一教育振興部長、荒田知宏教育施設課長、
鍋島健一学校再編室長、武内克朗学校再編室副室長、
河賀健太郎学校再編室主査

傍聴人の数：2名

1 開会

教育長あいさつ

(教育長)

社会全体が急速に変化してきており、将来への予測が困難である。しかし目の前にいる子ども達を、その中でもたくましく生き抜いていけるように教育していかなければならない。そのための教育環境を整備していくのが、教育を預かる私たちの大きな使命だと考えている。

そこで三木市では、平成30年度から学校再編計画に着手し、令和元年度には学校再編検討会議から出された提言書を尊重しながら三木市立小中学校の学校再編に関する実施方針を策定した。

まずは喫緊の課題である学校統合に着手し、次は小中一貫教育の導入を図っていく。

小中一貫教育については、当初より研究を重ねており、先進校への視察を行ってきた。令和2年度においてはコロナの関係で1年足止めになってしまっ

たが、現在までで 28 校の先進校を視察し、たくさんの教をいただいている。
学校現場においては、すでに昨年度から小中一貫教育に取り組んできている。

教育内容の充実、そして新たな学校施設の設置については、今回、学校関係者及び保護者、地域の方々の中から代表の方に参加していただき、ご意見をいただきながら方向性を定めていきたいと考えている。

委員の皆様には 1 年間多大なるお時間と労力をいただく事になるが、ご協力を賜りたく存じる。

2 組織づくり

(事務局)

三木市小中一貫教育推進協議会設置要綱に基づき協議会の委員長、副委員長を選出させていただく。

設置要綱の第 3 条の 3 項に「協議会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを決定する」とある。どなたかご推薦いただけないか。

(委員)

皆様のお手元にある、三木市の学校再編の方向性を位置づけている「三木市立小中学校の学校再編に関する実施方針」の策定にも委員として関わっていただいております、これまでの流れをよく知っておられる山下委員が適任だと考える。

(事務局)

山下委員への推薦がありましたが、他のご意見・推薦はいかがか。

【異議なし】

(事務局)

それでは、委員長を山下委員にお願いしたいと思う。

ここからの進行は山下委員にお願いする。

(委員長)

ただ今ご推薦いただいた神戸大学の山下です。僭越ながら本会の委員長を務めさせていただく。

早速ではあるが、副委員長の選出を行う。

兵庫教育大学の安藤委員は三木市及び他地域の小中一貫教育に関わっておられ、知見もお持ちで社会的評価も高いということから、私としては安藤委員を副委員長に推薦する。皆様いかがか。

【異議なし】

(委員長)

それでは、副委員長を安藤委員にお願いしたいと思う。

委員長、副委員長より、一言挨拶させていただく。

この会は小中一貫教育を推進していくために協議していく場となる。三木のこれからの子ども達のために、私達で話し合い、三木の学校をこれまで以上に盛り上げていけたらと思う。子どものために、まず私達が学び合う場になればと思っている。皆様のご意見を出していただき、私もそこから学ばせていただきたい。

(副委員長)

兵庫教育大学の安藤です。多少ながら小中一貫教育、小中連携教育の研究をし、そういった知見を活かしながら、三木市の地元の方々の意見をお聴きし、皆様と一緒にこれからの三木市のためになるような小中一貫教育の議論ができるよう、山下委員長をサポートして参りたいと思う。よろしくお願い申し上げます。

3 説明事項・意見

(委員長)

この協議会の目的と委員の役割について事務局より説明願う。

(事務局)

現在、三木市には、小学校 13 校、中学校 6 校、特別支援学校 1 校、計 20 校がある。学校施設はそれぞれ離れているが、6つの中学校区ごとに、小学校と中学校が協力して子どもを導き、支える「小中一貫教育」の導入に令和3年度から着手している。

将来的には、小中一貫教育を最も効果的に行えるのではないかと考えられる施設一体型の小中一貫校への移行をめざすという方向性を、教育委員会として持っている。

今回発足する小中一貫教育推進協議会においては、市が進めている教育について、学校及び地域、市民、保護者のそれぞれの立場からご意見をいただきたい。将来の三木の子どもをどう育てていこうかという、全市的な目線で意見を述べていただきたい。

今回の協議会で話し合うテーマは2点ある。

1点目は、小中一貫教育の中身（ソフト面）、教育の内容的なことである。現在市内の全校で推進中の取組について知っていただいた上で、こんな子ども

に育ってほしい等、学校や子どものゴール像について、皆様と話し合っていきたいと思う。学識経験者、地域、保護者の方に加え、学校も事務局も含めて、同じテーブルに着き、語り合う協議ができればと考える。

当然、具体的な教育の中身については、それぞれの実態に応じて、各校がしっかり考えていくことが大事だと考える。

2点目は、施設一体型小中一貫校（ハード面）についてである。三木市の将来の学校施設の在り方について、協議会として1つの見解を決定し、市に回答するのではなく、市が考える小中一貫校に関する方向性について、いろいろな意見をいただき、「意見書」にまとめ、その「意見書」を参考にして市の施策を進めていくこととしたい。

（委員長）

事務局から説明があったが、皆様ご質問等いかがか。

【質問等なし】

（委員長）

無いようなら、後ほどご質問いただいても構わないので、次の小中一貫教育の説明に移る。事務局より説明願う。

（事務局）

小中一貫教育の内容をA B Cの3つのパワーポイントに分け説明していく。それぞれへの疑問・感想・ご意見を黄色のワークシートに書き込んでいただきたい。その書き込みをもとに、質疑応答や意見交換の時間を持ちたいと思う。

本日お返しできなかった内容に関しては、第2回以降の小中一貫教育推進協議会にてお返しできるようにしていく。たくさん書き込んでもらいたい。黄色のワークシートは後で回収させていただく。

<説明>

A「小中一貫教育とは、義務教育9年間の学びをつなぐ教育、子どもを9年間で支え、導く仕組みである。」

B「三木市の小中一貫教育では、9年間の子どもの姿を、子どもの学びを、子どもの心をつなぐ教育をめざす。学校施設が離れていても小中一貫教育の理念に基づき、教育活動を展開していく。」

C「施設一体型の学校施設とは、児童生徒が日常的にふれあう時間・場が存在する施設である。ふれあいを通して、社会性を育み、自己肯定感が高まる施設である。」

(委員長)

事務局からABCの説明を受け、この3つの柱に即して検討していこうと思う。黄色のワークシートをもとに、一人1、2個の意見をお伺いしたい。

(委員)

6・3制というのはどういう意図で始まったのか。

(副委員長)

昔、アメリカは、8年制の小学校と4年制の高等学校(High school)との間で、ギャップが大きいので、小学校を6年制にし、高校を3年制にした。そして、その間に3年の中学校(Junior high school)を作った。あくまでも一説ではあるが、このような事を勉強したことがある。

(委員長)

アメリカの一部では8・4制をとっている所もあるが、中間のつなぎ方を工夫しようということで、6・3・3制にしている所もあるみたいだ。日本に導入された時は、アメリカでは6・3・3制が最先端の考えだという意識があったと思われる。

(委員)

中1ギャップという言葉が出てきたが、現行の制度の中で、中1ギャップの問題解決に向けて何か取組はされてきたのか。

(委員長)

子ども達にとって上手くいくやり方の1つとして、小中一貫教育というのが出てきたと思う。

(委員)

連携、一貫という言葉が出てきたと思うが、今まで小学校と中学校を分けて考えられていた事に驚いた。

(委員長)

教育界の常識が世間の非常識の部分も一部あると思われる。

(委員)

新たなことをしていこうという時には不安がつきものである。昨年、一昨年は統合があり、その時もどういう風になるのか期待もあったが、不安も大きかった。そして今度は小中一貫校と言われている。「また変わるのか。」というイ

メージで希望や夢という前向きな感想よりも、不安の方が大きいと思う。

ただ、今日の説明「実際の先進校の話等」を聞く中で、不安が夢や希望に変わりそうな気がしているので、こういう機会を地域の方へも発信していくことで、不安が和らいでいくような気がする。

教員の意識改革という言葉が出てきて、小中一貫教育を通して小学校も中学校も相互に変えていけると思った。

言葉は悪いが、偏見かもしれないが、私は中学校のことしか分からない。中学校の人間からすると中学校と小学校の違いは出口が保証されているか、されていないかの違いだと思う。小学校段階で、もう少しこうしてほしかったなという事は中学校の立場で正直あった。

中学校に新入生を迎え入れた時に小学校の先生方からいろいろな情報は聞き取っている。しかし、事前に聞いていた内容と実際に子ども達を見ると、良い意味でも悪い意味でもギャップがあった。中学校入学を新たなスタートとしてリセットをして中学デビューしてくる子ども達もいるので、小中一貫校になるとどうなるのかなと思う部分もあった。

(委員長)

小学校側からしてみると、下の学年の子ども達に、最高学年としての6年生の格好良い姿を見せてあげたいと思う。

中学校入学だけをリセットの時にするのではなくて、リセットする場面を用意して、毎日が良い意味でのリセットの時となっていけば良いのではと思った。

(委員)

改めて小学校の文化と中学校の文化は違うなと実感を持った。だからこそ見えてくる面もあるし、互いの文化の違いを受け入れ、小中一貫教育を捉えることが大切である。先程の委員の意見にもあった、小学校と中学校の児童生徒の見立ての違いや、小学生の自立心をもっと育むために、現在の教育を見直す機会になると考える。言葉だけでなく三木市のやっている中身を伴う一貫教育の実践というものには意味があると思う。

統合の際には、子ども達は多少不安な思いをしながら学校に通っていると思う。しかし、人数が増えることで、小規模校の時よりも友達が増えて不安が解消したということも聞いている。

課題はたくさんあるが、規模が大きくなると、メリットもたくさんある。先ほど話にもあった、「課題はデメリットではなく、どう解決していくか」ということが大事だと思う。

統合に向け急に舵を切って進めたと私は捉えていることは否めないが、小中一貫については時間をかけて理解を深めながら進めていけたら本当に良いものになるのではないかと思う。

(委員)

前勤務先の小学校は1こども園、1小、1中学校の校区で交流ができ、小中一貫教育のイメージが湧きやすかった。

しかし、現勤務校は中学校進学の際に2つの中学校に分かれて進学するので、どういう形で小中一貫教育を進めていくのか不安な面がある。

離れていても小中一貫教育は可能であるという事だが、最終的には施設一体型で小中一貫教育ができれば、より大きな成果が期待できると思う。金銭的なことや課題は多くあると思うがよろしく願います。

(委員)

子育てを卒業して教育には縁のないところにきている。子ども達を取り巻く環境はすごく変わってきている。学校の体制自体も変わっていると思う。6年生が中学1年生になる時は不安定になる時期だと思うので、小中一貫校は、子ども達にとっては良いことかと思う。メリット、デメリットについて勉強していきたいと思う。

(委員)

私達の頃の中1ギャップと言えば、中学校進学時にあった男の子の丸刈りだと思う。しかし今、気になった中1ギャップは、いじめの事である。小中一貫教育で9年間というつながりができれば、中学校への進学時にリセットされ、新たな中学校生活が始まる節目がなくなり、いじめが9年間続いてしまいやすいのではないかと思った。一人一人に目も行き届き、9年という長い期間、豊かに人間関係を過ごしていけるという事は奇跡に近いと思われる。目には見えない、学校が把握しきれていないいじめもある。リセットし、新しい人間関係が始まる区切りも大事ではないかと思った。

小規模の小学校から大規模の中学校への進学では、それこそギャップが大きすぎる。小学校のうちに大規模へ、また、規模の合った中学校に進学するのが良いと思う。

(委員)

事務局のパワーポイントがすごく分かり易くて、すっと理解できた。

地域の者としては、コロナ渦でなかなか関わる機会が少ないが、義務教育学校(小中一貫校)になっていくと、地域の教育力も活用していただけると非常にありがたい。

コミュニティ・スクールとまでは言わないが、地域のたくさんの人に見守っ

てもらえ、より安心感のある中で子ども達が9年間の人間関係を上手く循環させること、そんな学校づくりができればと感じた。

先生方の資質の向上は非常に難しいと思う。教育委員会の方でもいろいろ考えられていると思うが、資質向上のためのプログラムのようなものも取り入れ、実りのある取組をしていただきたい。

(委員長)

9年間を地域も一緒に見守っていただきたい。

教員の資質向上については重要な視点だと考える。

4 まとめ

(委員長)

皆様より、たくさんの良いご意見をいただき、感謝申し上げます。

会を運営する立場として意見が出なかったらと心配していたが、今回の様子を見て、一安心している。次回も大変楽しみである。これからもよろしく願いする。

(事務局)

今後の予定をお伝えする。

次回、第2回は7月の下旬で設定したいと考えている。

第3回は、8月25日を予定している。今のところは、先進校を1時間半～2時間ほど視察し、帰庁後、意見交換をできればと考えている。

第4回は11月頃、第5回は2月頃を予定している。

5 閉会

(副委員長)

たくさんのご意見をいただき、一安心している。ご協力感謝申し上げます。意見がたくさん出る会というのは素晴らしい会だと思う。教育は地域の方と行政が一緒につくっていくものだと考える。これからも率直な意見を聞かせていただきたい。私も、率直な意見を述べさせていただく。次回からも良い会にしていきたいと思う。